

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・たばこやカウンターのファーストフード、飲料といった当店の売上をけん引する商材が非常に良く売れている。また、7～9月と最大の山場がやってくるので、売れ筋の在庫をしっかりと持ち、好調を更に維持していきたい。
		コンビニ（経営者）	・気温の上昇とともにドリンク系の販売が増えることと、夏に向かってイベントが増えていくことで来客数や販売量も上がっていく。
		乗用車販売店（統括）	・新型車が数種類発売されるため、良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・8月は家族旅行のハイシーズンとなるため、良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・客の省エネ商品への関心が非常に高まっているので、エアコン等、夏物商材への期待ができる。
		百貨店（店長）	・売上が連続して上向いている。
		百貨店（店長）	・ボーナス支給額が増加しており、ポイント2倍のセール時に来客数が徐々に増加している。
		スーパー（統括）	・直近3か月の売上、来客数の動向や、夏の賞与は前年を上回るレベルとの報道などから、お中元セールやお盆商戦での消費マインド改善が期待できる。
		スーパー（商品部担当）	・株価の変動や景気動向に上向き感が見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が少しずつ増えてきており、客単価もやや上がってきているので、今後いくらかは良くなる。
		コンビニ（経営者）	・7、8月は売上が一番伸びる季節なので期待しているが、競合店が出店してくるというマイナス材料もあり、それを考慮した上で、若干伸びるかと期待感を持っている。
		衣料品専門店（統括）	・これから夏から秋にかけて、納涼祭、秋祭り等の行事が沢山あり、年間を通じて、売上が大体安定する時期である。特に祭り関係で、客となる若い人たちの消費が増える時期でもある。
		家電量販店（店長）	・エアコンの販売が順調に伸びている。節電の意識からか、省エネタイプを購入する客が多くなっている。また、扇風機も省エネ性能の高いDCモーター搭載モデルの動きが良い。梅雨明け本番以降に期待が持てる。
		乗用車販売店（店長）	・消費税増税前に購入を考える客が増える。
		住関連専門店（経営者）	・当社が参加する商業団体、工業団体でも、具体的かつ前向きに設備投資を考えている経営者が増加してきている。銀行等の姿勢も積極さが際立つようになり、経済の大きな動きを感じるようになってきている。
		スナック（経営者）	・少しずつでも全体のお金の流れが改善していってくれば良いと思う。皆が期待感を持っているように思うので、良くなり始めれば一気にいくのではないかと。
		スナック（経営者）	・毎年7～8月は6月よりもプラスになるので期待が大きい。ただし、今年は参議院選挙があるので不安も残る。
		観光型ホテル（営業担当）	・7月中旬以降からの宿泊予約は堅調である。夏が暑いと避暑のために客数も伸びる傾向となるため、暑い夏に期待している。
		都市型ホテル（支配人）	・県の観光物産課や商工会議所を中心に、夏の海水浴客、行楽客の誘致を図っているため、例年の夏よりは集客できるかと期待している。
		都市型ホテル（営業担当）	・3か月後くらいから年末に向けては毎年客の流れが良くなる傾向があるので期待したい。また、3か月前に比べ全体が少し良くなってきているので、この先3か月も同じように期待したい。
		旅行代理店（営業担当）	・夏から秋にかけて、旅行の申込が増えている。
		遊園地（職員）	・富士山の世界遺産登録が正式に決定し、今後は来客数の増加が見込まれる。
		ゴルフ場（業務担当）	・6月は用品等の売上が若干鈍っていた関係上、入場者を確保できて単価が上昇しなかった。安いプランを出して入場者を確保したからでもある。7月については、前年を上回る入場者の取り込みが成功しており、以後8月についてもそれなりの取り込みができるのではないかと期待している。売上も伴えば良いのだが、まず入場者の確保に全力を挙げているところである。先行きは今のところ明るい兆しも見えつつあるという印象である。
		住宅販売会社（従業員）	・契約は好調だが、技術者、施工業者の不足は深刻な状況である。ただし、これまで設計担当者の採用が難しかったところ、6月に2名採用の目途が立ったことを考えると少し状況が改善されているようである。

変わらない

商店街（代表者）	・悪いままで変わらない。休日、大型店にはやはり大勢の人が入っている。この先、路面店は商売がますます苦しくなる。5月も1軒が店を閉めた。
一般小売店〔精肉〕（経営者）	・参議院選挙後に動きがやや良くなるのではないかと期待しているが、7月に入って物が値上がりする影響が出て来るのではないかとと思うので、総じて変わらない。
一般小売店〔家電〕（経営者）	・現状に慣れてきたのか、消費税がらみの買い急ぎはない。徐々に商品が値上がり傾向になっていく中で消費者の購入意欲が出てくることを期待したい。
一般小売店〔青果〕（店長）	・来月大企業の吸収合併がある。かなりのリストラもされているので、その結果がどうなるか次第である。下請などが今までのように潤っていけば景気は上向きだが、下請が切られたい状態だと、当地域の景気はかなり落ち込む。
百貨店（販売促進担当）	・一部高額品の動きがあっても、食品等、最寄り品の売上は依然低調である。数か月では一般消費者の可処分所得の増加は見込めず、消費行動の改善には至らない。
百貨店（販売促進担当）	・中元商戦は年々縮小傾向にあり、期待はできない。一方、今夏のクリアランスは日程的にやや前倒しになる見込みから、売上増が期待できる。しかし7月の需要を先取りすることにもつながるため、先が読めない状況である。
百貨店（店長）	・消費動向という観点からは7月の参議院選挙がマイナスに働くという不安はあるものの、消費マインドは今月同様、さほど下がらないと思う。
スーパー（店長）	・マスコミ等で報道されているように、メーカーから食品の価格改定の打診が来ている。競争があるため、店では仕入価格が上がってもすぐには対応しないため、売上が変わらなくても、利益はどんどん下がる。
スーパー（店長）	・曜日ごとの来客数が数か月間ほとんど変わらない。
スーパー（総務担当）	・この先も変わらず、所得の上がった実感は無い上に、来年の消費税増税があるので、それほど財布のひもも緩まない。
コンビニ（経営者）	・どんなに美味しくても珍しいものでもすぐ飽きるからである。
コンビニ（店長）	・町の中、周囲では悪くなる予想ばかりである。せめて変わらないことを願っている。
家電量販店（営業担当）	・大きなイベントがないと家電商品の動きは厳しい。
乗用車販売店（経営者）	・アベノミクスの施策が地に足が着いておらず、今のところ内需拡大による実体経済の回復に結び付いていないといった面で危うさが感じられることが心配である。地方銀行の支店長との会話の中でも同じような意見が出ている。
乗用車販売店（経営者）	・地元自治体の大規模公共事業がいくつか予定されているが、それがどの程度景気上昇に貢献するかは不透明である。
乗用車販売店（営業担当）	・新車購入はディーラー志向が強く、中古車中心でオールマイティに販売を目指している当社のような子会社は今後不安要素が一杯である。
乗用車販売店（販売担当）	・これから3か月後は売れる要素の車が出ないことや、客があちこち他の車も見て回っている状況なので、よほどのことがないと変わらない。9月からはおそらく消費税対策で売れるのではないかとと思うが、まだ分からない。
乗用車販売店（販売担当）	・我々は観光地を後ろに控えての商売である。何年前の福島第一原子力発電所の風評被害もあるが、そのあとまた当地域でも地震があり、付近のホテルや民宿が廃業、休業に追い込まれており、観光地として厳しくなっているので、今のところ、今後もそんなに良くなるような状況にはない。確かに多少は良くなってる地域もあるが、地震のあった付近は全くといっていいほどだめなので、ここ2~3か月良くなるということはない。
自動車備品販売店（経営者）	・今のところ先が全く読めない。
住関連専門店（仕入担当）	・消費者は漠然とした不安要素を抱えているため、客単価の向上や買上点数の変化は見られず、低いレベルで安定してしまっている。
高級レストラン（店長）	・多くの人の所得が実際に増えるまではあまり変わらない。
一般レストラン（経営者）	・仕入原価の高騰を考えると多少の不安はあるが、今のままの状態が続く。
一般レストラン（経営者）	・同業者や他の業者の話聞いても、なかなか大幅に良くなるという要素はなく、まだ景気回復の実感はない。しばらくはこのまま変わらない状況が続く。
一般レストラン（経営者）	・7月は参議院選挙の影響で来客数が減る。夏休みに期待するしかない。

一般レストラン（経営者）	・飲食に関して、地方は大手スーパーやフランチャイズ店の時代になってきており、一般の飲食店は減る一方である。その大型店も本当に成り立つのか不思議なくらいの消費者の動きであり、景気回復が一般飲食店にも反映されるには相当の工夫が必要である。	
スナック（経営者）	・今回はすべて変わらないと回答したが、これ以上悪くならないという意味である。ちまたではアベノミクスと騒いでいるが、なかなか末端までは届かず、本当に良くない状態である。	
観光型旅館（経営者）	・旅館業は周りの景気が良くなってしばらくしてから客が増える傾向がある。現状ではまだ来客数が増えていない。むしろ、少し景気が上向いて残業や休日出勤が増えると来客が減る傾向にある。	
都市型ホテル（スタッフ）	・飲食業では7～9月は売上が落ちる時期であり、7月に入ると参議院選挙もあるので、しばらくの間はこのままで変わらない。暮れになるまでは厳しい。	
旅行代理店（所長）	・夏の予約動向も今のところ鈍く、当然ながら、秋口の動きは更に厳しいと感じられる。	
旅行代理店（副支店長）	・景気回復と言われているが、地方にはまだその兆候がない。夏から秋に向けての受注も前年同時期のほぼ横ばい状態で、回復兆候とはいえない。為替の安定も不安材料の一つと考えられる。	
タクシー運転手	・同業者が増えたのでしばらくは状況は変わらない。	
タクシー（経営者）	・人の動きが悪いので、この先も変わらない。	
通信会社（経営者）	・地方では高齢化が進む一方で、購買意欲もたかが知れている。高齢者支援も大切だが、子育て世代の支援をもっとしないと政策による一時的な景気回復にしかないのではないかと。子供が増えない限り、景気の安定上昇はないと思われる。	
通信会社（経営者）	・今のところ客の反応が鈍く、上向き要素がない。	
通信会社（営業担当）	・景気は回復傾向にあるものの、個人の給与にはボーナス以外なかなかすぐには反映されないため、しばらくの間は小康状態が続くように思われる。	
通信会社（局長）	・参議院選挙のねじれ解消等の結果にもよるが、現時点では不透明な要素が多い。	
通信会社（総務担当）	・アベノミクスによる経済効果も一部企業にとってはプラスかもしれないが、中小企業ではその影響は薄く、今後もあまり期待できない。	
テーマパーク（職員）	・天候不順が続き、夏場にも影響が出ると見込まれるので、現状維持が現実的と思われる。	
ゴルフ場（支配人）	・予約は例年より順調に入っている。大型コンペはないものの、プライベートの年配者の予約が多くなっている。	
競輪場（職員）	・他場の記念競輪の売上もほぼ同額で推移しているからである。	
美容室（経営者）	・梅雨が長引けば来客数が減少し、売上も増加にもっていきことができなくなる。夏休みに向かって気温が上がれば髪の毛をカットする人が多くなり、来客数は増加するが、単価上昇につながるとは思えない。	
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・予約状況を見ても、来客数、単価、売上等の予測を見ても横ばいで変わらない。	
その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・景気の動向も、まだ不安定である。	
設計事務所（経営者）	・今後の依頼もある程度ある。	
設計事務所（所長）	・変化は特にないと思うが、今月動き出した物件がうまく軌道に乗って受注につながってくればよいと思っている。	
住宅販売会社（従業員）	・消費税増税まで1年を切り、別荘などの住宅関連ではそろそろ駆け込み需要が出始めるのではと予想される。	
住宅販売会社（経営者）	・不動産を購入しようという消費者の意欲はまだ低く、本当に安い値段の物件ならば関心を示してくれるが、一般的な時価相場の物件には見向きもしない。また、銀行の融資等も表面上は当たりが良いが、実際はまだ融資姿勢が厳しい。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・当店は学校主体の販売のため、7月の半ば過ぎに学校が休みに入ると暇になる。
	商店街（代表者）	・マスコミ報道では景気が上向きとなっているが、末端の景気は上向いていないと感じている。客の財布のひもは緩んでいない。
	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・良くなる要因は今のところ見当たらない。
	コンビニ（経営者）	・収入増の前に支出増に先に直面し、家計が圧迫されそうである。

		衣料品専門店（販売担当）	・今月から来月にかけて夏のボーナスという大きな売上につながる要素はあるが、残念ながら客の気配から感じ取れるほど良くなりそうな雰囲気はない。逆に、このままいろいろ分野で値上げが広がっていくと、また買い控えということにもつながり、お中元の時期や参議院選挙といった非日常的な要素もからんで来るので、夏場ということも含め、今後2～3か月は悪くなっていく要素のほうが多いという印象である。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の発売が9月になるため、10月以降でないで販売の増加が見込めない。
		乗用車販売店（従業員）	・客からの受注がコンパクトカー中心になっているため、収益面では減少となっている。
		住関連専門店（店長）	・前月と同様、来客数の減少が主な要因である。また、円安により、輸入品の利益確保が難しくなってきた。
		美容室（経営者）	・1か月前まで、「ちょっと景気が良くなるのかな？」と言っていた客が、「周りの話を聞いてそう思っていた、実際には4月の給料も上がらず、何の根拠もなく言っていた」と話していた。現実には手元に余裕のあるお金などないということでは、来店頻度が上がるとは思えない。
		設計事務所（所長）	・消費税増税対応での設計はリミットを過ぎたということで、当地方では、来年4月までは建築関係の景気浮上は難しい。
		住宅販売会社（経営者）	・工事請負契約に対する時限措置の9月末を過ぎると、一時的に需要が落ちる可能性が考えられるため、やや買い控えや様子見が増え、全体的には悪くなる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中小零細企業へアベノミクスが浸透してこない。この層の所得が上がらないことには、商店街はいつまでも苦戦を強いられる。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・7月に参議院選挙があるが、選挙中は人の動きも少なくなり、商売的にはやはり難しくなる。
		スーパー（経営者）	・価格競争は避けられない。
		コンビニ（店長）	・当店のすぐ近くにいいよ同業他社の店が開店することになり、これがちょうど2～3か月先になるので、確実に悪くなる。
		タクシー運転手	・タクシーの利用客はまだまだ少なくなる。
企業動向関連 (北関東)	良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・土地を購入してメガソーラーを準備しているので、三本の柱がしっかりでき、良くなる。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・富士山の世界遺産登録に関連して、外国人を含めた来県者が増加し、それに伴いワインの消費量及び販売量の増加が見込まれる。ただし、資材費の高騰が懸念される。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・9月ごろにリニアの駅の場所が発表になるので、相乗効果があればと期待している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・7月より立ち上がる新規品の受注が決定し、旧来品も建設機械部品の数量が増加に転じ、自動車部品も多少ではあるが増量方向に向かいつつある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・夏場以降、建設機械、油圧建機分野において仕事量の増加が予定されており、当社のベースとなる仕事は回復する。しかしながら、回復のペースは非常に緩やかであり、急回復するようなことはない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今まで上がったりがったりの状況で、アベノミクスではないが、やや良くなるというのは期待を込めた回答である。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・少しずつ動きは出ている。貴金属の相場が下がって来ているので、落ち着いてくれば商品は作りやすい。
		建設業（経営者）	・公共事業の発注が本格化するためである。
		建設業（開発担当）	・今後、建設業では10年以上続いている企業数が減少し、従業員数が減っている状況から労務単価の見直しが実施される。この影響で、何年か続いていた工事利益計上が難しい状況からの脱却を計りたい。
		建設業（総務担当）	・参議院選挙の結果次第となるが、現時点よりは更に予算の効果が出てくる。
		金融業（経営企画担当）	・アベノミクス、富士山の世界遺産登録などにより期待材料も多い。特に、サービス業においては世界遺産登録で国内ツアーや外国からの観光客増加による売上増が期待できる。また、建設業についても消費税増税に伴う駆け込み需要による新築案件の増加が見込まれる。

	金融業（役員）	・国、県、市の公共工事が前年比で1.5倍ぐらい出てくるということで、現在設計段階にあるのが秋口には仕事が始まるだろうということで、2～3か月先は受注量が増えていくということが1つである。もう1つ、自動車関連では大手メーカーが今までとは違う工場から7月から新しい機種を生産を始めることである。7月から稼働し、10月には相当な生産量のピークを迎えるだろうということで、一部業種に限っては、こういった経済効果が出ているようである。
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、商談ベースから判断すると、少しではあるが改善の兆候が見える。半期の決算前の投資か、客の投資意欲の変化か、何とも言えない。しばらく様子見である。
変わらない	食料品製造業（経営者）	・規制緩和、法人税の減税、所得税減税など、もっといろいろなベンチャー企業やチャレンジ企業ができやすい経済環境を作らなければ日本経済が活性化され良くなると思うが、現状の改革程度では、来年の消費税増税とともに日本経済が失速してしまうのではないかと。大胆な改革案が発表されていないので、本当に経済成長できるのかどうか半信半疑である。もっと新規投資、起業家マインドをくすぐるような政策を期待する。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・動向は悪いながら、リゾートホテルへのものづくり体験ブース出店の話が進みつつあり、展開に期待が持てる。
	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・業界全般でこの先3か月くらいは低調に推移する。
	金属製品製造業（経営者）	・今も注文が少なくなっているが、これから2～3か月先についても注文が増える見込みはない。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内でものを作るようになって、それがどんどん増えれば景気も良くなるだろうが、今のままではしばむばかりである。
	電気機械器具製造業（経営者）	・当社の決算は6月末だが、11年ぶりに赤字決算という不名誉な形になってしまった。前年の12月までは順調であったが、年が明けてから全然だめでどうにもならない。新規開拓を進めているが、なかなか思うような売上増にはなっていない。非常に厳しい状況である。
	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の新機種量産が始まったが、生産量が伸び悩んでいる。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・工場関係の設備投資が少なく、景気が早急に良くなるとは思えない。
	輸送業（営業担当）	・政府の景気対策等で物量が増えている状況ではないが、今後、夏場に向かい、天候によって夏物の家電、衣料品などが増えて来る予定である。また、特にインターネット通販向けの物量は増えている。ただし、円安による燃料高は厳しく、荷主への運賃転嫁も難しいので利益は薄くなっている。
	通信業（経営者）	・仕事の量や価格で見ると、マスコミで言われるほど景気の上向き加減は感じられない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）
	経営コンサルタント	・市場環境の改善という期待感が徐々になえてきて、中小企業の経営者は積極的な設備投資に踏み出せないでいる。
	司法書士	・事務所に相談に来る客は少し増えてきている。今が耐え時なのかかもしれない。
	社会保険労務士	・受注動向などを見ていると、ここ最近の夏と同じ程度の盛り上がりとなる。
やや悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・夏場に向けて数量そのものはほぼ例年並みになるものの、原料や灯油が値上がりした状態なので、売上は同じでも内容は悪くなる。端的に言えば販売価格を上げないともうけがなくなる。
	化学工業（経営者）	・7月1日からの電気料金値上げを受け、原材料を仕入れる際の値上げ幅が具体的に出てきた。転嫁をするべく営業的に作業を始めているが、価格改定に費やす時間、エネルギーは大変なものである。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーの3か月見通しでは、7月と比べ、8月が約30%減、9月はさほど変わらず、10月はまた落ち込むという予想になっており、トータルでは3か月前と3か月後の数量はさほど変化はないと見ている。ただし、コスト低減により販売単価が若干下がったことから、収益面がやや厳しくなっている。原材料については、前年度と比べてガス、電気料金共に値上がりしているため、収益状況は厳しくなる。
	不動産業（経営者）	・大手製造業が好転しても、中小は依然厳しく、経費の支出だけが膨らんでいる状況である。

		不動産業（管理担当）	・当社で管理する物件について、オーナーとの間に別の会社が入る仕事が増えている。今後もこのような傾向が続くそうなので、当社の取り分は少なくなり、利益率が下がる。
		広告代理店（営業担当）	・毎年6～8月は広告宣伝費が抑えられる時期である。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・とにかく利益が出ない。資金繰りが大変である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注見込みが乏しく、細かい仕事も少なくなっている。見通しは暗い。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・自動車及び携帯電話関連の企業からの増員がしばらく続く予定である。
(北関東)	やや良くなる	職業安定所（職員）	・目に見えるほど景気が改善するとは思われないが、横ばいから上向き傾向で徐々に推移していくものと思われる。現状での回答と合わせ、富士山の世界遺産登録の影響も、県内の宿泊、飲食、販売業などで期待されている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・夏物衣料等の出足は、まだ安心できない状態である。食料品関係が主になるギフト商品については出足が良いような状態である。給与所得などは横ばいだが、そろそろボーナスが出て来そうなので、全般的には若干上向きのではないかと皆期待している。
		人材派遣会社（経営者）	・今年に入り、企業からの要請がほとんどない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・株価の乱高下など、先行きが不安定ななかで、地方の景気回復はまだ不透明である。
		職業安定所（職員）	・景気回復への期待感強いが、最近、変化の歩みが鈍いように感じられる。
		職業安定所（職員）	・企業に聞いてもアベノミクスの影響等はさほどなく、売上等も前年同期比で変わらないという回答が多い。マスコミの報道などで、アベノミクスの影響により都内では高価な物が売れ出したという話を聞いても、地方ではまだまだなのですぐには変わらないだろうという話が多い。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・上向き傾向の経済状況が高校生や専門学校生への求人数に結び付いてきているとはまだ思えない。企業側でも動向を見ているようである。また、新卒学生に求めるスキルは依然として高いものと感じている。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・ここ数か月の新規求人は前年同月比で1月が1割減、2月はほぼ横ばい、3、4、5月はそれぞれマイナス5.6%、8.6%、12.7%となっている。対して新規求職者数は4～6月にかけて追加の早期退職実施があったことなどから、4月が前年同月比で7.5%増、5月も6.4%増となっている。求人は減少傾向、求職者は増加傾向という状況はもう少し続きそうである。企業訪問時などに事業主に話を聞いても、新規求人は依然厳しいということなので、状況は変わらない。
	悪くなる	-	-